

震災との歩み ～ 5人が語る ～

この度の東日本大震災により、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災した方々に心よりお見舞い申し上げます。また、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

このレポートは、会員の皆様が震災に際し「どのように対応したか」の事例を紹介し、今後、私たちは「何を準備しておくべきか」を考えるきっかけをご提供することを目的として、経験したナマの声をお届けします。

- Q1 地震発生時は何をされていてどのような事がありましたか？
- Q2 地震発生後すぐにしたことは？（今思えば失敗したなあと思うことは？）
- Q3 震災時にありがたかった思い出は？
- Q4 今後の地震や災害に備えて準備しておきたいこと（物）は何ですか？
- Q5 震災を体験して思ったことや行っていることなどを自由に記入ください。

反町中 佐々木 久夫

- A1 クレーン付き4トントラックの運転をしている時に大きく横揺れがして、重い荷物のせいかなと思ったが、電信柱が大きく揺れて倒れそうになったので、車を止めて車外に出て、広い畑の中央に逃げました。非常に長い時間に感じられました。
- A2 消防団に入っているので、役場に向かうためトラックの荷降ろしをし、災害対策本部へ行った。震災後すぐに従業員を集合させ、会社独自の対策本部を設立し行動をとるべきであった。
- A3 しばらくぶりで兄弟や子供と一緒に炊き出しをして、二、三日食事を共にしたことです。早寝、早起きして、生活が家族全員一体となった、お互い思いやりの生活ができたこと。
- A4 生活用品と食料、燃料、電気（動力発電機）など、常に備蓄が必要。また、地区内が集合して話し合い、お互いに情報を知り伝えることが必要。
- A5 いつでも、どこでも身の安全の箇所を見極めること。連絡網などで情報の共有が重要である。

金取南 石垣 いさ子

- A1 私は台所で煮物を作っている最中、急に大きな揺れに襲われてビックリして、いったんガス台から離れて、立ってられず柱にしがみつきました。「あっガスの火を止めなくては！！」と思い少し揺れが収まった時に急いでガスを消しました。
- A2 外に出て家族の安否を確かめました。幸い一番心配していたおばあさんは、ビニールハウスに入っていたので、無事で安心しました。
- A3 県外にいる親戚や知人から安否確認の連絡が入り、その後、食料などが送られてきて大変ありがたいと思いました。また、水道だけは、止まらず大変助かりました。
- A4 水、食料、燃料、乾電池、ラジオなど
- A5 震災後、津波の被害にあった地域でガレキの片付け作業を手伝ってきました。家々や大きな建物など全てがことごとく、破壊され津波の恐ろしさを目の当たりにしてきました。
震災を通じて家族の絆、人とのつながりが、改めて大切なことだと思いました。

2011.3.11発生 東日本大震災 緊急特集

八志田 千葉一美

- A1 当日は消防本部隊長として勤務しておりました。地震発生時は消防車両取扱訓練中で各隊員に車両を車庫外に移動の指示、全員庁舎外から避難、人員確認、出場体制準備を指示しました。
- A2 災害対策本部にて今後の体制、各種災害現場等への出場人員調整（例えば 県や市への災害派遣隊・郡内の災害出場調整をした）
- A3 当日勤務のため数日間帰宅できず、家族等に連絡が取れないのが一番心配でしたが、一時帰宅した時に家族全員が無事であったことが一番ありがたかった。（我々は地域住民を守る義務があるので、家には帰宅できないのです。仕事優先。）
- A4 再度、自宅の耐震診断を受けること。老人の安全確保についての検討。家族各自の任務の確認。地域の自主防災組織の設置。自分たちの地域は自分達で守る体制
- A5 今回の震災で沿岸部から離れており、被害が最小限だったために、地震に対しての恐怖感等について関心が無いように見えます。ライフラインも早く復旧していますので、阪神・淡路大震災で住民が口にしていた“日頃の付き合いの良し悪しが、生命の助かる助からないの分かれ目”最後は人です。ちょっとした勇気、声掛けです。
- 3年前にも岩手・宮城内陸地震が発生しました。その時の教訓で、今回の地震では栗原の地域リーダーが率先して活動し、自主防災組織が100%、自助・共助・公助が市民に浸透したということでした。今後は、今までの防災計画では対応できないため、計画の見直し、地域住民との研修会を通して自主防災組織の確立、命の大切さの再認識が必要です。二度とこのような災害は起きてほしくないのですが、たとえ、いつ起きても皆さんが対応できる地域にしてもらいたい。

反町下 堀籠健人

- A1 青葉区で仕事先のお宅にいた。なにもできず、あのひどく長い揺れの間、柱につかまっているしかなかった。
- A2 そのお宅の火の元を確認した。その後、栗原の職場に向かった。
- A3 仕事で沿岸部の避難所に行くたびに、全国から本当に沢山の支援が寄せられ、心から有難く感じた。
- A4 また、このような自然現象が繰り返されるだろうという心の用意をすることが大切だと思う。
- A5 あれから時間は経ったが、被災地の方々の生活は止まったままなので、少しでも前進できるよう祈念いたします。

八志田 今野静雄

- A1 東京海上日動仙台支店にて会議中に震災に遭い、立体駐車場に入れた車が閉じたまま、他に交通機関もなく、4時間かけて吉岡に歩いて戻る。
- A2 地震発生中に事務所に電話連絡して無事の確認をしましたが、事務所の中は書類が散乱状態の中で、電話を受けさせていたことが反省
- A3 車の燃料が無く動けない時に、知人より突然連絡があり10ℓの燃料を頂いた時は感動でした。
- A4 停電対策及び連絡の手段の検討 仕事柄パソコンが使えない！連絡が取れない！今後は発電機及びバッテリー等の設備を設置
- A5 大震災に対して自衛隊並びに警察の対応が早く、また、被災地に全国からいろいろな支援等の集結、多くの方々に復興作業にあたって頂いたことが印象に残っています。現在も多方面で日夜作業、及び警備している方々に感謝申し上げます。